



# 株式会社セック

**S**ystems **E**ngineering **C**onsultants Co.,LTD.

<http://www.sec.co.jp/>

銘柄コード:3741

## 2017年3月期 第2四半期決算 説明資料

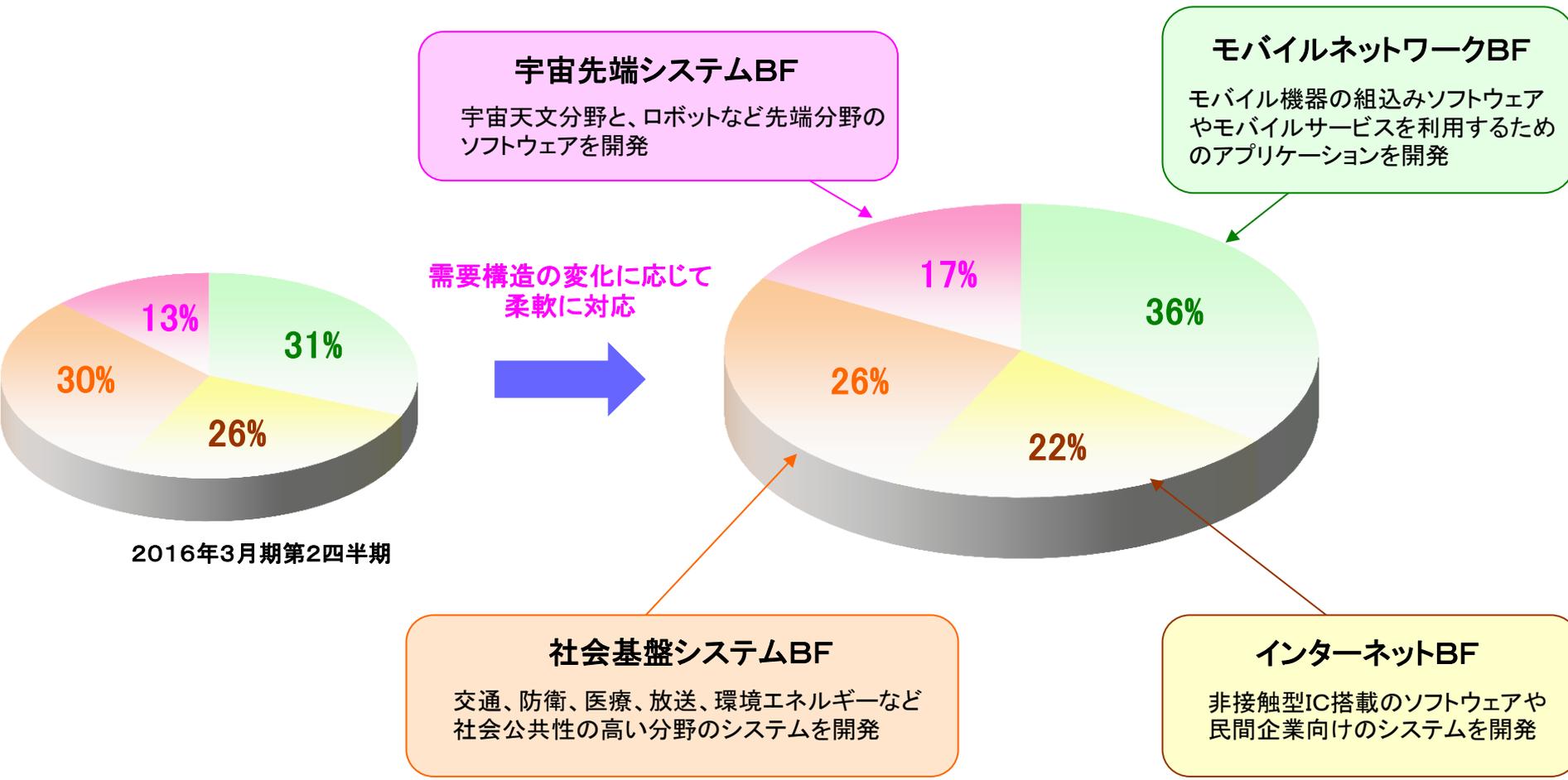
2016年11月29日

# <目次>

- **事業分野**
- **第2四半期決算概要**
- **通期業績見通し**
- **注力分野の状況（IoTとロボット）**

# 事業分野（BF）

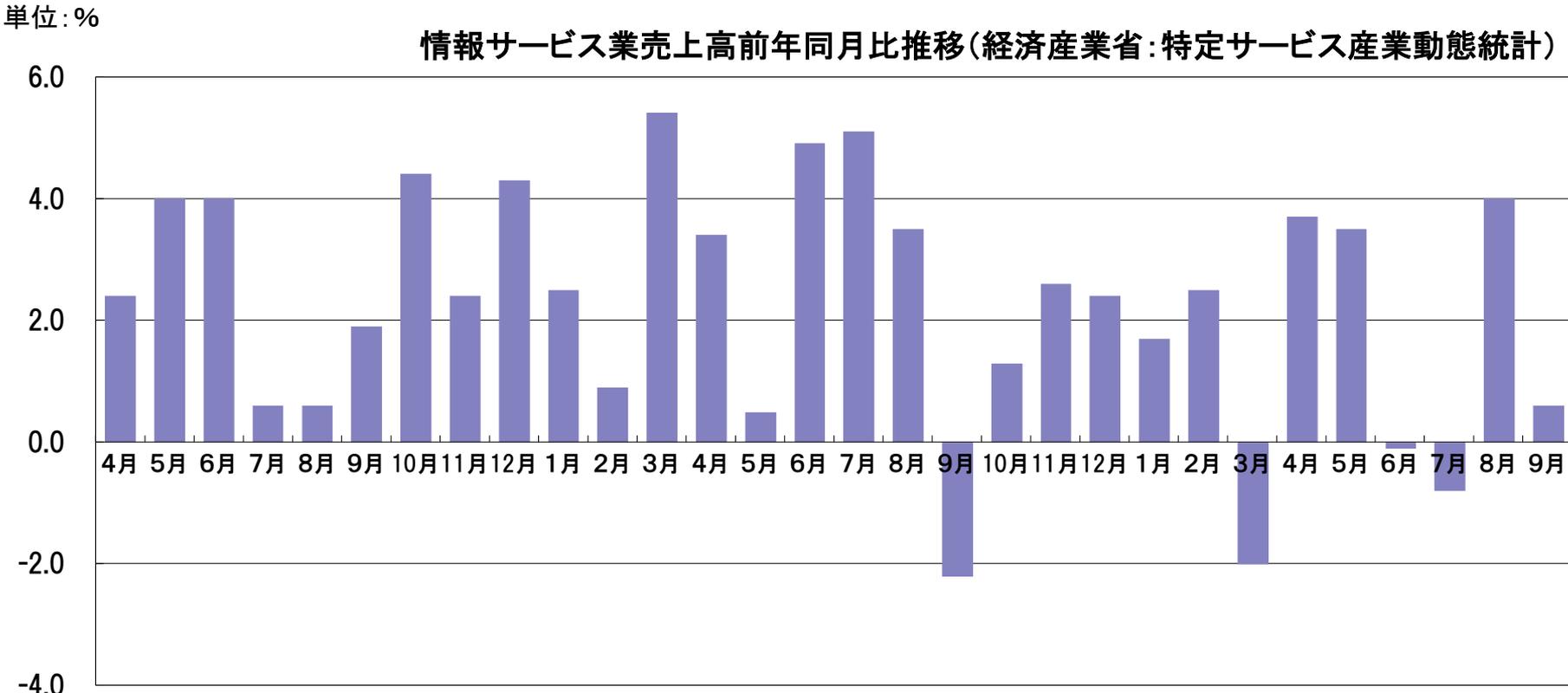
## リアルタイム技術が得意とする4つの分野



※2017年3月期よりBFを変更しております。2016年3月期の数値は変更後のBFに組み替えております。

# 第2四半期決算概要 (2017年3月期)

## 2017年3月期第2四半期の事業環境



月別売上高は2015年8月まで25ヶ月連続で増加し、IT需要は堅調に推移していたが、9月以降はマイナスも見られ、IT需要は踊り場に差し掛かっている。

# 2017年3月期第2四半期総括

## 売上高、利益面ともに計画を下回り、前年同期比で減収減益

売上高	: <u>2,029</u> 百万円	前期比	2.1%減	
営業利益	: <u>130</u> 百万円	前期比	53.6%減	利益率 6.5%
経常利益	: <u>142</u> 百万円	前期比	51.1%減	利益率 7.0%
四半期純利益	: <u>97</u> 百万円	前期比	49.6%減	

## 受注高は前年同期比で減少、受注残高は増加

受注高	: <u>2,154</u> 百万円	前期比	0.6%減
受注残高	: <u>1,322</u> 百万円	前期比	3.8%増

## 既存分野で業績を支え、成長分野に投資して継続的な成長を目指す

- 社会基盤システム分野の放送案件で不採算プロジェクトが発生し、減収減益
- 移動体通信事業者向けのサービス系の開発、モバイル決済端末、車載情報システムの開発が増加し、モバイルネットワークBFが増加
- 車両自動走行の研究案件が増加し、宇宙先端システムBFが大幅増加

# 第2四半期損益計算書

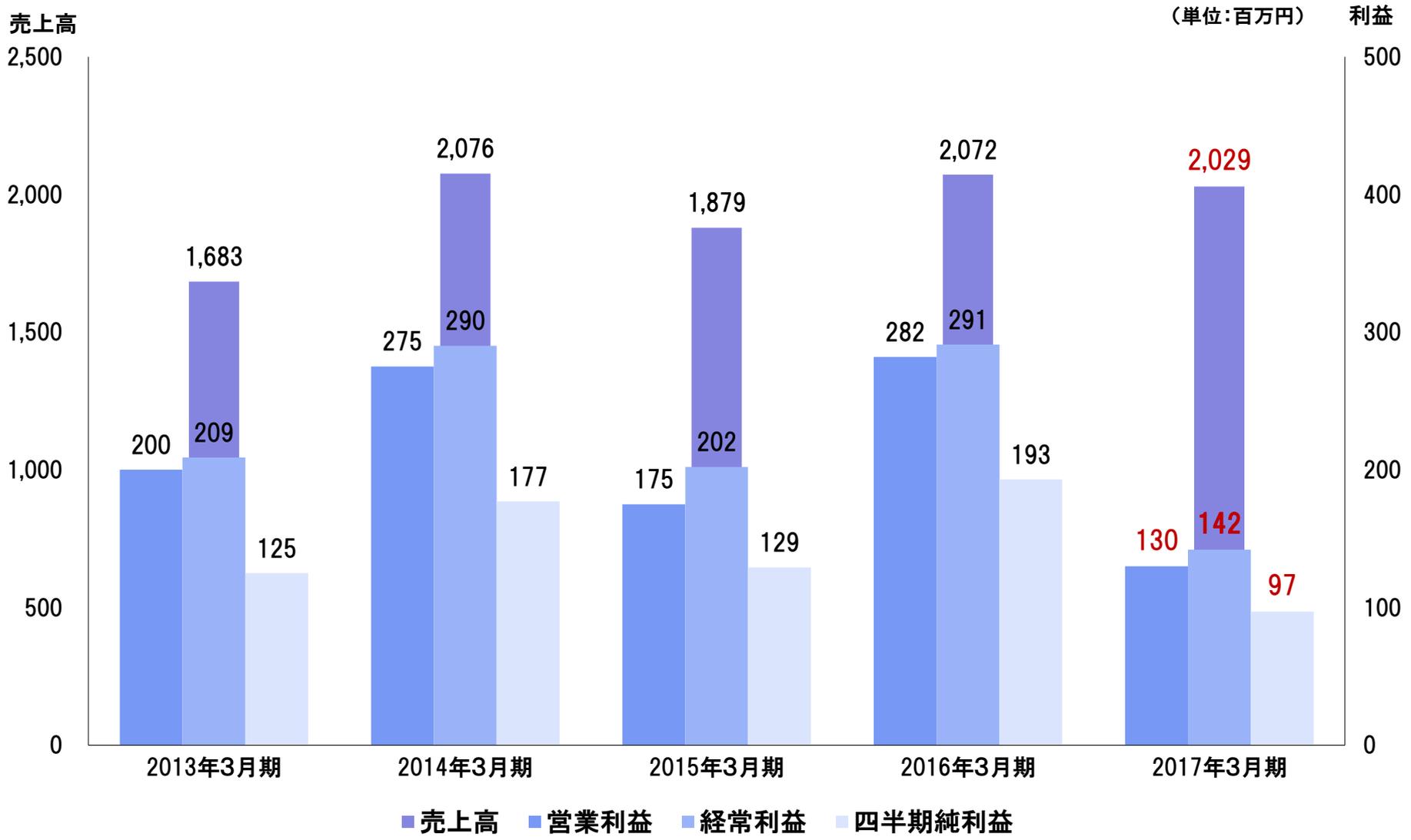
	2016年3月期 (百万円)	2017年3月期 (百万円)	前期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	2,072	2,029	97.9%	2,100	96.6%
売上原価	1,525	1,546	101.4%	1,490	103.8%
売上総利益	546	483	88.4%	610	79.2%
販売管理費	264	352	133.2%	380	92.7%
営業利益 (営業利益率)	282 (13.6%)	130 (6.5%)	46.4%	230 (11.0%)	56.5%
経常利益 (経常利益率)	291 (14.1%)	142 (7.0%)	48.9%	240 (11.4%)	59.2%
四半期純利益	193	97	50.4%	170	57.1%

**売上原価** 外注費が増加した(4.3億円、前年同期比1.8%増、売上高外注比率21.3%)

**販売管理費** 人件費と研究開発費が計画を下回った。研究開発費10百万円(前年同期比4百万円、120.5%増)

**営業外損益** 研究開発の補助金収入はなし(前年同期もなし)

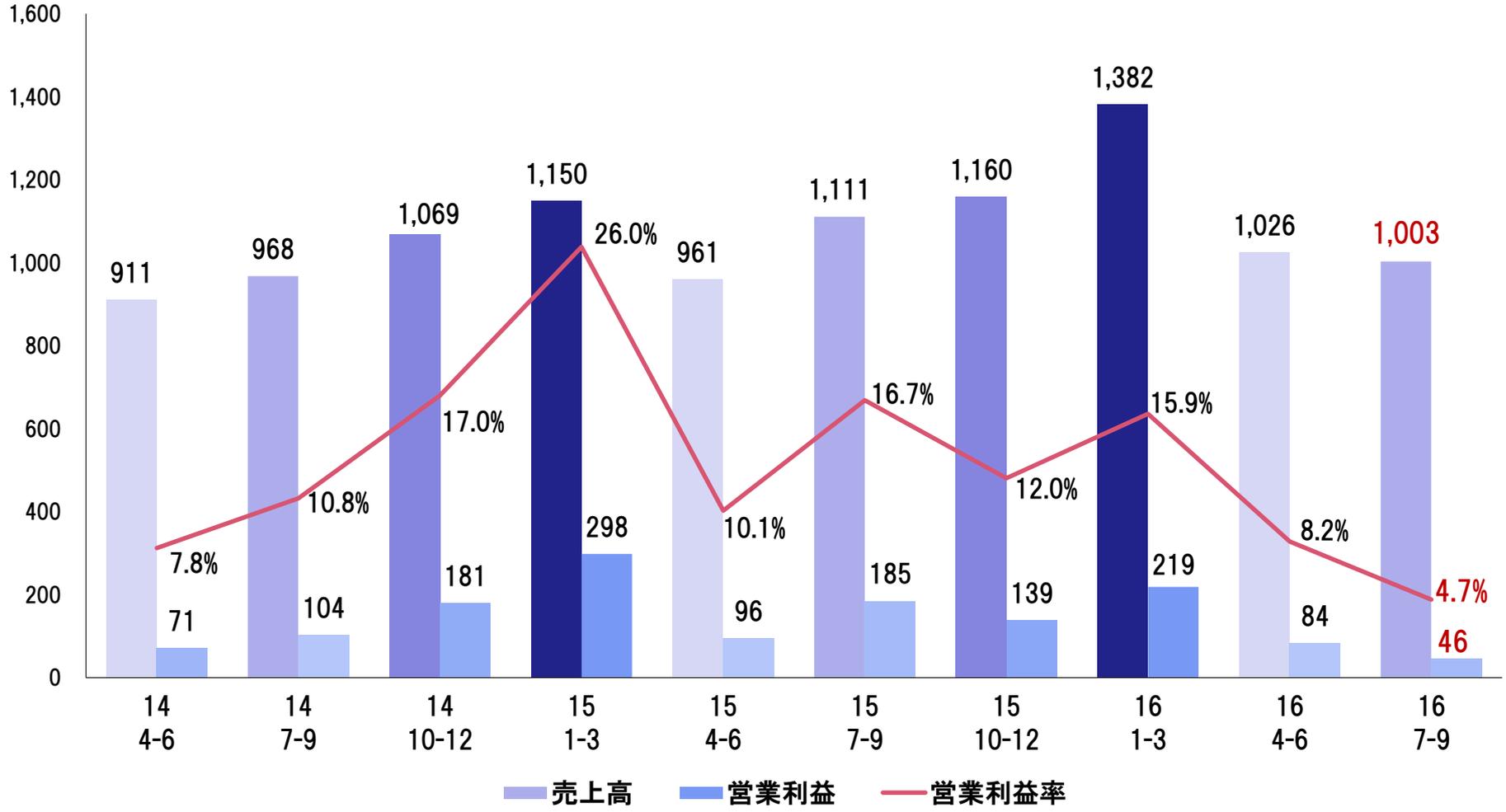
# 第2四半期決算業績推移(過去5年)



# 四半期業績推移(PL)

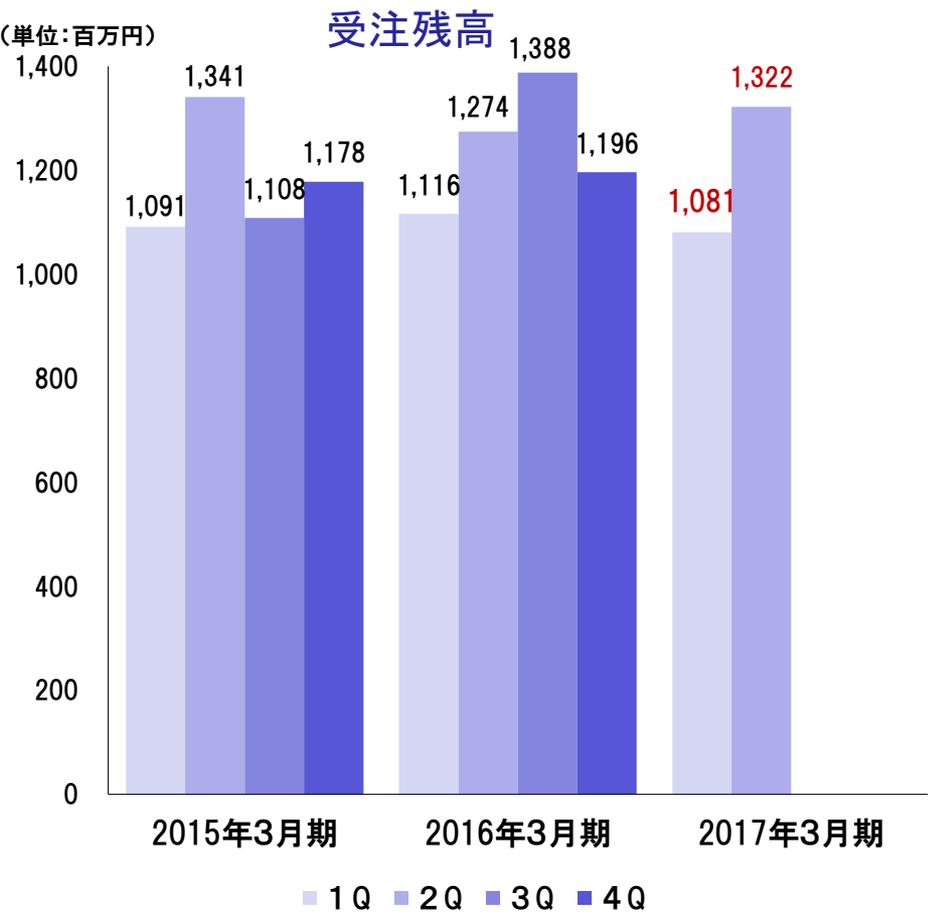
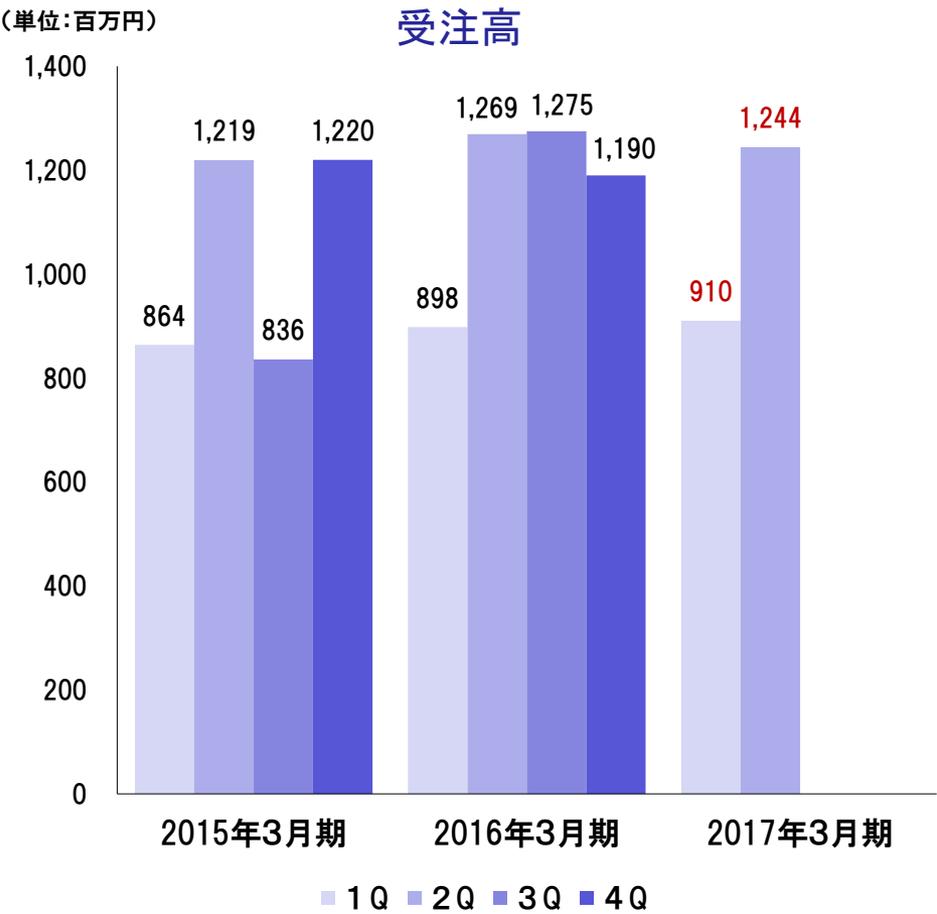
2015年3月期の第3四半期から4四半期連続で増収増益、その後、3四半期連続で増収減益、当第2四半期は減収減益

(単位：百万円)



# 四半期業績推移(受注状況)

受注高、受注残高ともに第2四半期としては過去2番目



# 第2四半期 BF別の状況

## モバイルネットワークBFと宇宙先端システムBFが増加

ビジネスフィールド	2016年3月期		2017年3月期		前期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	
モバイルネットワーク	650	31.4	720	35.5	110.8
インターネット	537	25.9	438	21.6	81.5
社会基盤システム	623	30.1	528	26.1	84.8
宇宙先端システム	260	12.6	341	16.8	131.1
合計	2,072	100.0	2,029	100.0	97.9

- モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのサービス系の開発、モバイル決済端末や車載情報システムの開発が増加
- インターネットBFは、前期にあった化学メーカーの大型案件の開発が完了し減少
- 社会基盤システムBFは、官公庁は堅調だったが、医療分野の開発案件が減少
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行の研究案件の開発が増加

# 第2四半期末のBF別受注状況

## 宇宙先端システム、社会基盤システムが増加

ビジネスフィールド	2016年3月期		2017年3月期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前期比 (%)	受注残高 (百万円)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	784	331	596	76.0	233	70.6
インターネット	632	276	440	69.6	215	77.9
社会基盤システム	503	498	670	133.2	611	122.7
宇宙先端システム	246	167	447	181.5	261	156.0
合計	2,167	1,274	2,154	99.4	1,322	103.8

- モバイルネットワークBFは、全体的に計画が後ろ倒し傾向にあり受注高が減少、それに伴い受注残高が減少
- インターネットBFは、前期にあった民間企業向けの大型案件の開発が完了し、受注高、受注残高がともに減少
- 社会基盤システムBFは、官公庁案件が好調で受注高、受注残高がともに増加
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行の研究開発案件などが増加し、受注高、受注残高がともに増加

# 第2四半期末貸借対照表

(単位:百万円)

	2016年3月末日	2016年9月末日	増減
流動資産	4,531	4,221	▲309
固定資産	1,408	1,437	28
流動負債	893	629	▲264
固定負債	125	134	9
純資産	4,919	4,894	▲25
総資産	5,939	5,658	▲280
自己資本比率	82.8%	86.5%	3.7%
流動比率	506.8%	671.1%	164.3%
固定比率	28.6%	29.4%	0.7%

流動資産 売掛金減少による減少

固定資産 投資有価証券の増加による増加

流動負債 買掛金、未払法人税等の減少による減少

# 第2四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2016年3月期	2017年3月期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	578	388	▲190
投資活動によるキャッシュ・フロー	93	▲10	▲103
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲133	▲132	0
現金及び同等物の増減額	539	244	▲294
現金及び同等物期末残高	2,402	2,819	416

営業キャッシュ・フロー 税引前四半期純利益、仕入債務の減少による収入減

投資キャッシュ・フロー 前期は定期預金の払戻しによる収入があったため、前期比では支出増

財務キャッシュ・フロー 配当金支払額の減少による支出減

# 通期業績見通し (2017年3月期)

# 2017年3月期業績見通し

## 不採算案件が発生し、業績見通しを下方修正

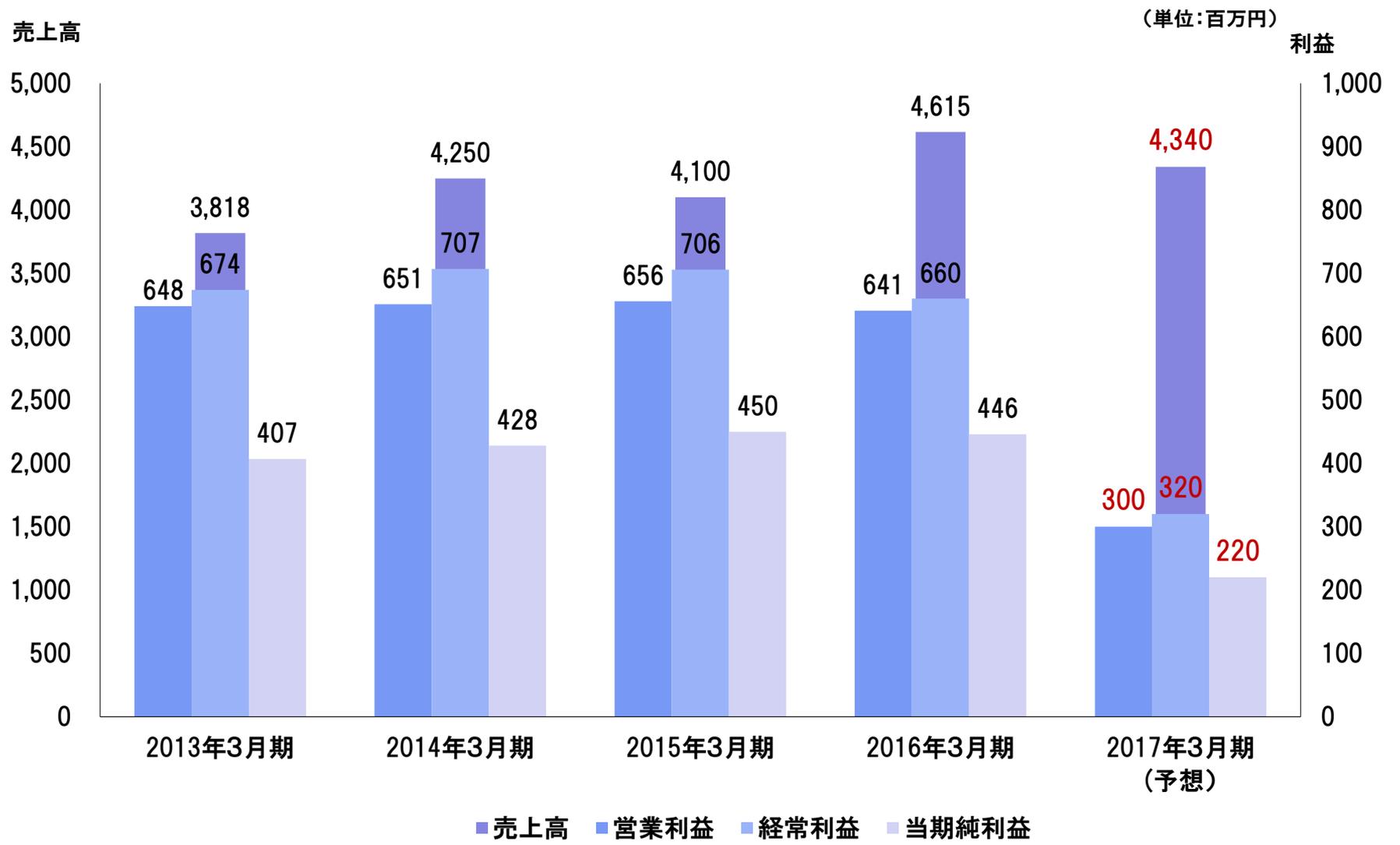
(単位:百万円)

	2016年3月期 実績	2017年3月期 業績予想	前期比 (%)
売上高	4,615	4,340	94.0
売上原価	3,438	3,330	96.9
売上総利益	1,177	1,010	85.8
販売管理費	535	710	132.6
営業利益 (営業利益率)	641 (13.9%)	300 (6.9%)	46.8
経常利益 (経常利益率)	660 (14.3%)	320 (7.4%)	48.4
当期純利益	446	220	49.3

上期に発生した社会基盤システムBFの放送関連プロジェクトの不採算案件は、第3四半期末で収束の予定です。

しかしながら、本案件への資源配分による機会損失と収束後のプロジェクトの組み替えを見込み、売上高が減少する見込みです。それに伴い利益面も修正しております。

# 通期業績の推移



# 2017年3月期BF別業績見通し

## モバイルネットワークと宇宙先端システムが増加の見通し

ビジネスフィールド	期初の見通し	予想	第2四半期状況判断	予想
モバイルネットワーク	移動体通信事業者向けのスマートフォンに関連する開発に、モバイル決済端末や車載情報端末などの商談を上乗せして増加	↗	上期は、ほぼ予想どおりの展開だったが、一部、開発計画が遅延する傾向があり、大幅増から増加に変更	➡
インターネット	民間企業向けは堅調だが、化学メーカー向けの大型案件が終わり減少	➡	上期はほぼ予想どおりの展開で、通期でも減少になる見込み	➡
社会基盤システム	防衛、放送、医療、官公庁系などが堅調と予想されることから増加	➡	官公庁は堅調だが、医療分野が予想を下回り、通期では前期並みに変更	➡
宇宙先端システム	車両自動走行の研究開発案件が引続き好調であり、サービスロボットの商談を上乗せして増加	↗	上期は、車両自動走行の研究開発案件やロボットの商談も増加傾向にあり、ほぼ予想どおりの展開	↗

## IoTとロボット

研究開発テーマ  
ユビキタス

ユビキタスを  
具現化したものが  
IoT

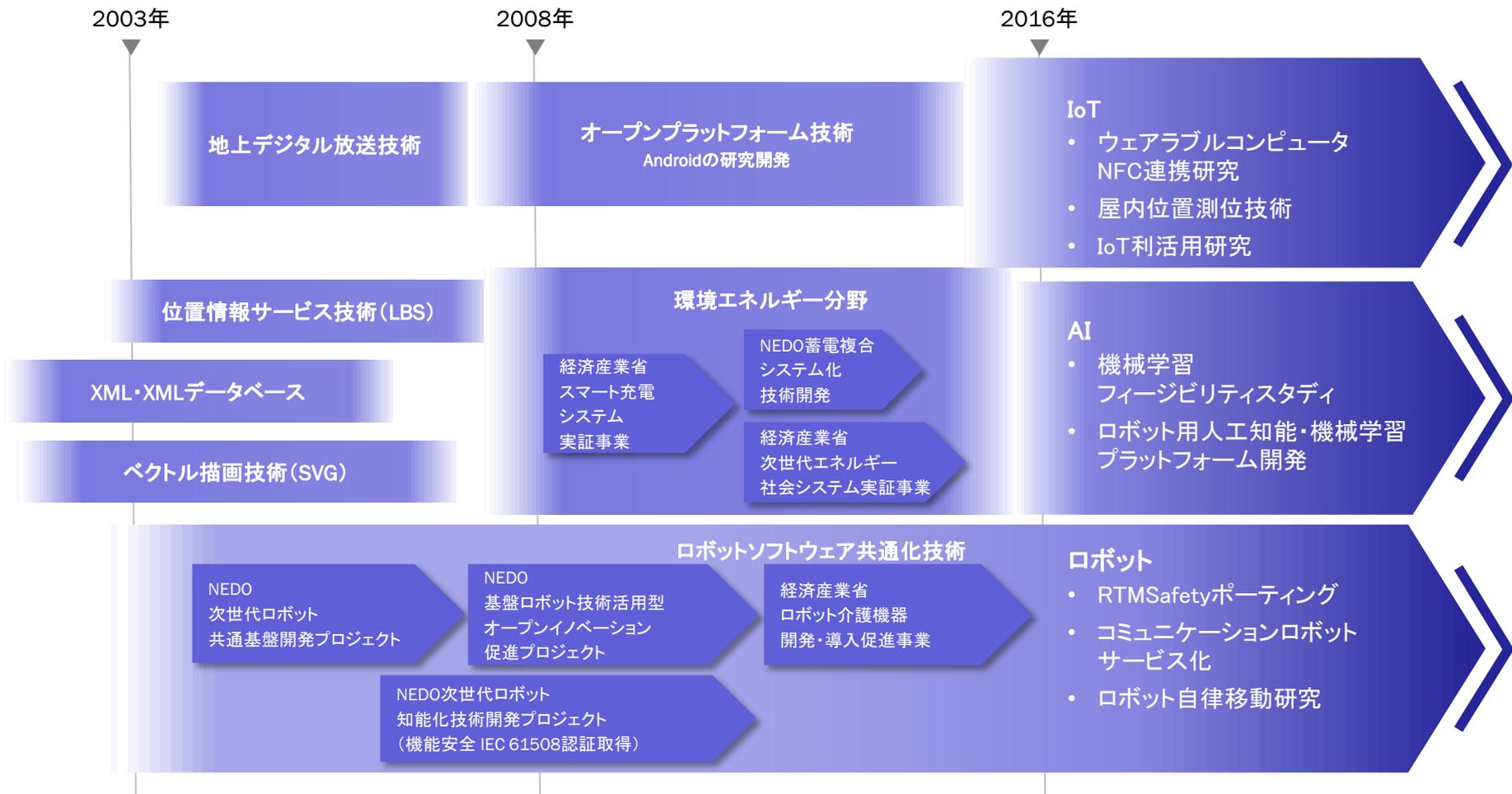
ユビキタスの  
究極の端末は  
ロボット

# 研究開発の歴史と方向性

研究開発テーマ「ユビキタス (Ubiquitous)」

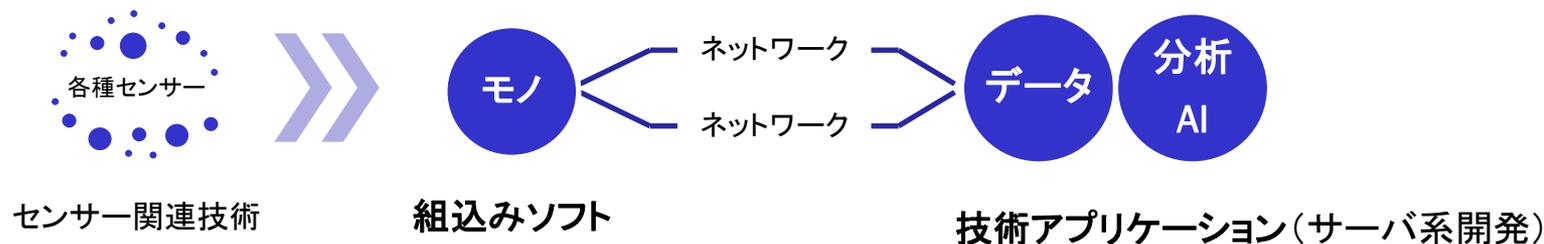


基盤技術はリアルタイム技術



# IoTへの取組み > *Realtime@IoT* (*Internet of Things*)

## IoTの構成要素



## セックの強み ~ リアルタイム技術により「IoT」を実現 ~

- **IoTの構成技術を所有**  
IoTを構成する技術は、センサー関連技術、組込みソフト、ネットワーク技術、サーバ技術、アプリケーション開発技術などが必要で、ソフト的には、組込みソフトとサーバ系の技術アプリケーションを得意としている。
- **リアルタイム技術を全社員が所有**  
当社は、創業以来、計測制御システムを得意としてきた。この技術は、センサーの状況を把握して、色々な機器を制御する技術で、IoTの基幹技術である。

## 研究開発重視 ~ 変化先取りで、ロボットに注目 ~

- **ロボット技術**  
2003年より、「モノ」としてロボットに着目している。  
ロボット単独での自律走行研究、ロボットのサービス化を狙ったコミュニケーションロボットの研究、ロボットとAI(人工知能・機械学習)をつなぐプラットフォームの研究を行っている。

# ロボットへの取組み

## ロボットにシステム工学を！

ユビキタス社会の究極の端末はロボットであるという考え方のもと、2003年から、他のソフトウェア会社に先行して、ロボットの研究開発に着手。

「**ロボットにシステム工学を**」をスローガンに、安全性の高いロボットの早期実現のため、開発期間の短縮、低コスト化の側面から取り組んでいる。



# ロボットビジネスの状況

**実績** (2017年3月期第2四半期 売上高約241百万円)  
(前々期約40百万円 → 前期約124百万円)

## □ 開発案件

- ・ 大手自動車メーカー等からの車両自動走行研究ソフトウェアの開発案件が倍増
- ・ 大手電機メーカー、機械メーカーからの研究開発や商用案件の受託開発が増加  
→ 顧客層が拡大傾向

## □ 研究開発

- ・ RTMSafetyのポーティングの研究を開始
- ・ ロボット自律移動研究を開始
- ・ ロボットへの搭載可能な人工知能・機械学習プラットフォームの研究を開始  
(早稲田大学との共同研究)



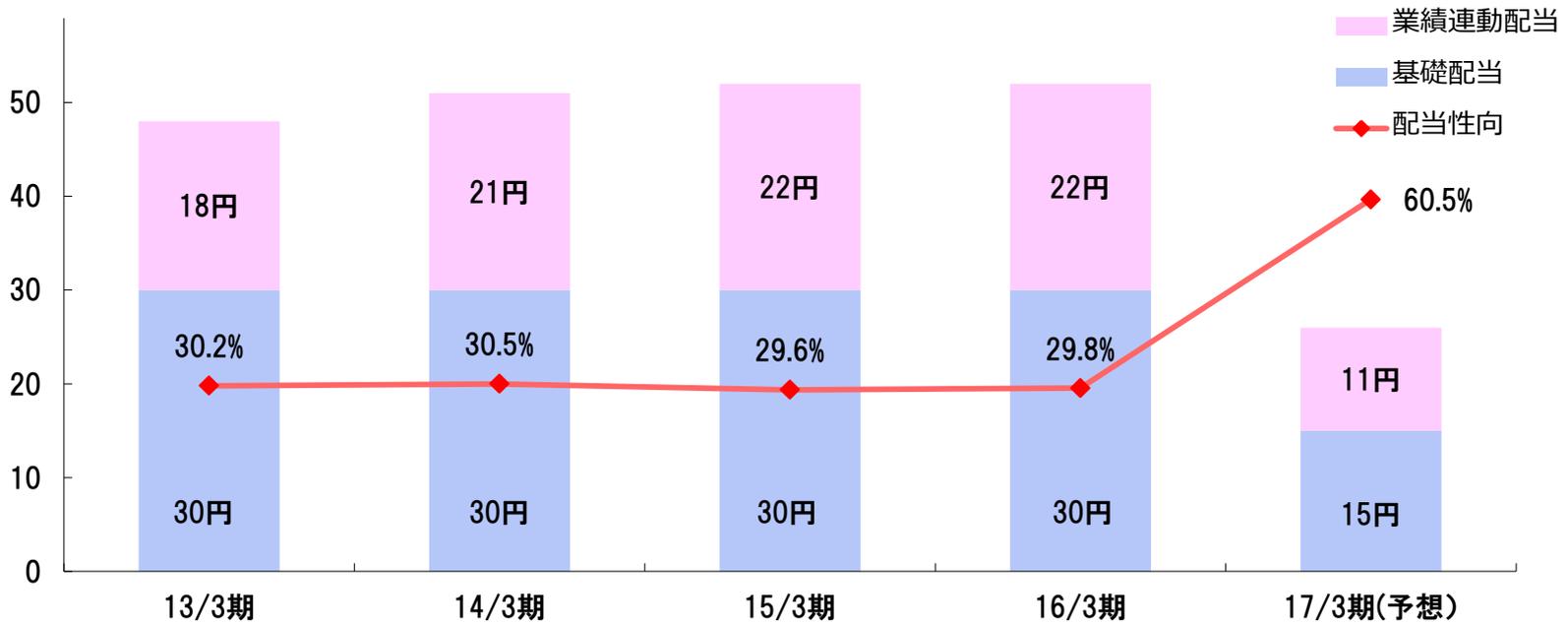
**今後の方針** (研究開発案件に販売用ロボットの開発が加わり、ビジネスが拡大傾向)

- ・ 個別ロボットの受託開発を推進(大手電機メーカー、機械メーカー、ベンチャーなど)
- ・ ロボット利活用サービス (コミュニケーションロボットを使ったサービス)
- ・ 機能安全ソフト(RTMsafety)や自律移動ソフトの販売の促進
- ・ 標準化技術ビジネス(RTミドルウェア、ROS)



# 配当の方針

- 原則として安定的に配当する部分と所定の配当性向とを勘案して毎期決定する。配当性向は当面30%を目指す。安定的に配当する部分は1株当たり15円(※)とする。
  - 2017年3月期は1株当たり26円の配当予想とする。
- ※ 2016年10月1日付けで、1株につき1:2の割合で株式分割を実施しております。



● この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。

● この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。

● この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。